

「AYA世代」理解を

オンライン 市民講座 当事者ら現状訴え



(左上から反時計回りに)中塚教授、松本理事長らがオンラインで行った市民公開講座の画面

15〜39歳でがんと診断された「AYA世代」への理解を深めてもらうための市民公開講座(中国・四国広域がん療を担う岡山大学院

プロ養成コンソーシアム主催)が11日、オンラインで開かれた。AYA世代の当事者や治療を担う岡山大学院

教授らが、患者らの置かれた現状や課題を語った。NPO法人愛媛がんサポートおれんじの会(松山市)の松本陽子理事長は約20年前、子宮頸がんが見つ

り、手術や化学療法を受けた経験を紹介。当時30代で、治療のため仕事を休まざるを得なくなり、子どもも産めなくなるなど大きな悩みを抱えたが、「周りに若い患者が少なく、孤独を強く感じた」とし、当事者団体と関わり仲間を見つけ

る大切さなどを訴えた。岡山大学院保健学研究科の中塚幹也教授(生殖医療)は、治療内容によって生殖能力が低下するリスクがある一方、将来の妊娠に備えて卵子の

プリ「Zoom(ズーム)」で行い、約150人が聴講した。(石井聡)